

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標5_人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ】

施策 5-4_近代化産業遺産の保存活用・整備の充実

	基本計画	事業番号	細事業名称
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02257_01	近代化産業遺産保存活用事業
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02509_01	端出場水力発電所整備事業
5-04-01	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	02580_01	山田社宅整備事業
5-04-02	別子銅山の歴史の伝承・情報発信	02257_02	近代化産業遺産情報発信事業
5-04-02	別子銅山の歴史の伝承・情報発信	10316_01	広瀬歴史記念館充実事業
5-04-03	多喜浜塩田文化の保存・継承	10543_01	多喜浜塩のまちづくり事業補助金

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	02257_01			
事業名(行目名称)		近代化産業遺産まちづくり推進費	細事業名	近代化産業遺産保存活用事業				
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実				
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進	担当課	別子銅山文化遺産課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	保存活用対象物件		数値	7件			
	手段(どうやって)	保存活用計画が策定されている施設については、引き続き整備を進め、公開までの期間、植栽の手入れ等適正な維持管理を行う。また、他の代表的な別子銅山近代化産業遺産については、所有者である住友グループの協力が不可欠なため、協議を進める。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	登録有形文化財旧端出場水力発電所及び住友山田社宅については、調査報告書や保存活用計画に基づき、基幹的な拠点として整備し保存活用する。他の代表的な別子銅山近代化産業遺産についても保存整備調査を行い、「登録有形文化財」等を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		9,258	9,962	9,962	9,252	<ul style="list-style-type: none"> ○旅費 337千円 ○需用費 500千円 ○役務費 110千円 ○委託料 4,530千円 ○使用料及び賃借料 4,465千円 ○負担金補助及び交付金 20千円 		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	337	339	339	388			
	一般財源	8,921	9,623	9,623	8,864			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
山田社宅等利用者数			目標値	400	800	400	800	800
			実績	244	582	392	777	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>住友山田社宅6棟エリアの維持管理について、老朽化に伴う緊急補修箇所、樹木剪定、除草等の維持管理経費、借地料などが継続的に見込まれる。緊急度に応じて計画的な補修が必要である。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>住友山田社宅の緊急補修箇所の施設修繕費、除草等委託業務について現状維持として要望する。2棟は仮オープンを開始しており景観など周辺環境に配慮した適正な維持管理を推進する。そのほか借地料、光熱水費、清掃等管理用品など実績見込みによる予算要望を行う。職員の時間外勤務手当の削減のため、山田社宅のガイド案内の委託人数を1人体制から2人体制に変更する。旧端出場水力発電所関連予算(除草委託業務、借地料)を端出場水力発電所管理運営費に付け替える。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	B:事業の進め方の改善検討					
<p>住友山田社宅については、令和3年度末から実施している限定公開を継続し、利用者数は目標値の97%となった。また、旧端出場水力発電所については、令和4年度末に一般公開を開始した。今後も施設の適切な管理・運営を行い活用を図る必要があるが、指定管理者制度の導入を検討するなど、より効率的な管理運営方法を検討する必要がある。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	02509_01	
事業名(行目名称)		端出場水力発電所整備事業		細事業名 端出場水力発電所整備事業			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策 近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進		担当課 別子銅山文化遺産課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	市内外観光交流人口(マイントピア別子来場者数)			数値	307,597人	
	手 段 (どうやって)	平成28年度末に策定した保存活用計画にもとづく本体耐震補強工事及び周辺整備等工事の推進					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	登録有形文化財 旧端出場水力発電所の文化財としての保存、一般公開活用					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 40千円 ○旅費 290千円 ○需用費 20千円 ○使用料及び賃借料 1千円 ○工事請負費 114,513千円 	
経費		175,367	114,864	114,864	24,756		
財源	県・国支出金	80,389	46,387	46,387	1,309		
	地方債	72,300	41,700	41,700	1,100		
	その他	22,678	26,777	26,777	21,083		
	一般財源	0	0	0	1,264		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
設計、工事件数			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	統合する				
<p>来訪者のためのアクセス道路等周辺整備工事は、施工に伴う関係機関との調整及びエリア内で建屋基礎等の地下構造物が発見され、その既存構造物への干渉回避に伴う設計(仕様)変更等に時間を要しており、工程に遅れが生じている。令和5年3月末の公開活用に向けて、今後もスケジュール管理を行う必要がある。</p> <p>水車移設工事は、移設に係る協議に時間を要したため、工程に若干の遅れが生じているが、10月末に業者が決定し、11月から施工に向けて準備していく予定である。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
<p>保存活用計画に基づき実施してきた本事業は、今年度の周辺整備工事をもって当初予定の全工事が完了予定である。今年度末の公開活用以降は、管理運営に移行(端出場水力発電所管理運営費)する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討			
<p>建屋南側の張出歩道や北側階段など一部工事を除く周辺整備工事が完了し、令和5年3月末から一般公開を開始した。未施工箇所については、次年度の繰越事業として実施するとともに、今後施設の維持管理がスムーズに実施できるよう全事業完了にあわせて「保存活用計画」改訂版を策定した上で、整備事業は終了予定で、以後、管理運営に完全移行する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	02580_01	
事業名(行目名称)		山田社宅整備事業		山田社宅整備事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策			
	基本計画	別子銅山近代化産業遺産の保存活用・整備の推進		担当課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子銅山関連施設来場者数			数値	14,659人	
	手段(どうやって)	令和元年度に策定した保存活用計画に基づく耐震補強工事、内部改装工事及び周辺整備工事の推進					
	目的(どんな状態にしたいのか)	登録有形文化財 住友山田社宅の文化財としての保存、一般公開活用					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○需用費 120千円 ○委託料 4,740千円 ○工事請負費 87,674千円 ○備品購入費 820千円	
経費		27,094	93,354	93,354	30,269		
財源	県・国支出金	12,408	43,837	43,837	12,650		
	地方債	11,100	39,400	39,400	11,400		
	その他	300	0	0	1,000		
一般財源		3,286	10,117	10,117	5,219		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
設計、工事件数			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	0	1
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
今年度予定していた外国人社宅等耐震改修工事については、昨今の物価上昇により資材単価等が急激に高騰していることで、数回入札不調(現在未契約)となる等、今後の事業進捗も含めて多大な影響が出ている。設計内容を変更し、再入札予定である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
保存活用計画及び令和3年度の実施設計に基づき、外国人西社宅耐震補強及び内部改修等工事、総合案内所及び資料館への改修整備に伴う備品購入費用の予算要望を行う。また、当該事業に係る時間外勤務手当についても要望する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
内部展示品の作成、調度品の調整を行った。また、耐震補強等工事については、資材単価等の高騰による入札不調により事業の遅れが生じ、次年度に繰り越して実施することとなった。それに伴い、整備完了までの次年度以降のスケジュールも見直すこととなった。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	02257_02		
事業名(行目名称)		近代化産業遺産まちづくり推進費		細事業名	近代化産業遺産情報発信事業			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実			
	基本計画	別子銅山の歴史の伝承・情報発信		担当課	別子銅山文化遺産課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対象(誰・何を)	市内外観光交流人口(マイントピア別子来場者数)			数値	307,597人		
	手段(どうやって)	平成25年度は大阪パネル展、平成26年度は東京展を実施。平成27年度から別子銅山産業遺産創造塾等を開始。情報発信について、市内外での継続的な取り組みを行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	多くの市民及び市外の人に新居浜市にある近代化産業遺産の価値を正しく認識してもらう。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,037	1,096	1,096	923	○報償費 5千円 ○需用費 465千円 ○役務費 10千円 ○委託料 616千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	20	100	100	27			
	一般財源	1,017	996	996	896			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
資料(マップ作成)			目標値	5000	5000	5000	5000	5000
			実績	0	5000	0	10000	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
自然散歩や別子銅山産業遺産創造塾の実施など、イベントを通じた情報発信を行うことができた。全国イベント等の情報発信において活用するパンフレット等についても制作予定である。今年度末に一般公開を予定している旧端出場水力発電所について、重点的に情報発信を行っていく必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
自然散歩や別子銅山産業遺産創造塾講座は実績を重ね、今後も一定数の参加が見込まれる。複数年の実績の積み重ねで効果があるため、翌年度も内容精査したうえで予算要求を行い、例年どおり各種手段での情報発信していく必要がある。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
例年実施しているイベントやパンフレットによる情報発信を行った。特に「銅山のあゆみ」案内マップについては、旧端出場水力発電所の一般公開による配布部数の増加が見込まれるため、作成部数を増やした。今後も、イベントや各種ツールを活用して情報発信を継続する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10316_01		
事業名(行目名称)		広瀬歴史記念館充実費		細事業名 広瀬歴史記念館充実事業				
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策 近代化産業遺産の保存活用・整備の充実				
	基本計画	別子銅山の歴史の伝承・情報発信		担当課 別子銅山文化遺産課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民			数値	115,920人		
	手段(どうやって)	調査・研究に基づき、企画展、講座・講演会を開催し、教育普及に努める。企画展開催期間中に記念講演会、記念茶会等を実施することにより、近代化産業遺産及び歴史に対する興味を深める。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	近代化産業遺産に関する資料の調査・収集・研究を進め、企画展や教育活動の普及を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,531	1,834	1,834	1,454	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 40千円 ○旅費 104千円 ○需用費 233千円 ○委託料 1,457千円 		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	1,531	1,834	1,834	1,454			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
企画展来場者数			目標値	1000	1500	1500	1500	1500
			実績	1238	1578	0	1432	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>11月3日から12月18日まで、広瀬歴史記念館展示館において、特別企画展「明治二十三年写真帳の世界 ～別子開坑二百年と広瀬邸～」を開催予定である。新型コロナウイルス感染症予防対策として、令和2年度及び令和3年度と同様、例年より規模を縮小し、関連イベント(記念講演会、記念茶会等)の実施を見送ることとした。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>翌年度の新型コロナウイルス感染症を巡る情勢は見通せないものの、例年と同等の規模にて企画展等を開催する予定である。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>上記目的のとおり、特別企画展を開催することができた(関連イベントは未実施)。当該企画展の来場者数は、1,432人であった。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10543_01	
事業名(行目名称)		塩のまちづくり事業費		細事業名	多喜浜塩のまちづくり事業補助金		
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	近代化産業遺産の保存活用・整備の充実		
	基本計画	多喜浜塩田文化の保存・継承		担当課	社会教育課		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	多喜浜校区住民及び市内外の塩文化に関心のある人			数値	3670人	
	手段(どうやって)	①学校敷地内に設置されたミニ流下式塩田「ソルティ多喜浜」への維持・管理 ②多喜浜小学校児童のESDの取り組みへの協力。③市内小学6年生対象のふるさと学習(塩田学習)の実施への協力。④「塩の学習館」を利用した塩づくり体験の実施と多喜浜塩田遺跡巡り等の対応。⑤「ソルティ多喜浜」「塩の学習館」「多喜浜資料展示室」の見学者への対応。⑥塩田かるたを通して地域の子どもたちへの多喜浜塩田の保存継承活動の実施。⑦多喜浜小学校児童を対象とした「塩田讃歌」踊りの普及事業の実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	近代産業遺産である塩田の文化を後世に伝えるために、子どもから高齢者まですべての世代が協力し、その発掘を保存伝承を図ること、ふるさとへの誇りと愛着を深める。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 190千円	
経費		146	190	190	190		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	146	190	190	190		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
参加者数(延べ人数) (ふるさと学習を含む)			目標値	2000	2000	2000	1000
			実績	536	511	117	669
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ前のように実施できていない状況であるが、感染対策を講じながら、小学生のふるさと学習の受け入れ等を行っている。本事業では、地域全体での保存、継承が行われているが、事業の中心となっているのは高齢者が多く、継承者の育成が必要である。今年度は、PTAへの参加の呼びかけの加え、自治会員への説明会、活動内容を画像や文章にしたマニュアルを作成する等を行い、数人ではあるが継承者ができた。今後も引き続き行いたい。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>郷土の近代産業である塩の文化を後世に伝えるため、すべての世代が協力し、その発掘と保存・伝承を図ることは、人と地域の力で豊かな心を育み、つながり、学び合うまちづくりにつながることから本事業を継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、以前のように実施できない状況ではあったが、昨年度に比べると市内外の各種団体や個人の参加、小学校のふるさと学習を実施する学校も増えた。本事業では、地域全体での保存、継承が行われているが、事業の中心となっているのは高齢者が多く、継承者の育成が必要である。PTAへの参加の呼びかけの加え、自治会員への説明会や、活動内容をまとめた資料の作成等を行い、継承者ができているため、今後も引き続き行いたい。</p>							